

あいちトリエンナーレ2010のプレイベント・現代美術の発見Ⅰということで、「アニマルズ in AAC—三沢厚彦の世界」が愛知芸術文化センターのフォーラムで3月24日から開催されています。トリエンナーレでは草間彌生、渡辺英司、西野達、島袋道浩、ヤン・フードン、ホアン・スー・チエ、ダビデ・リヴァルタなどの作家が出品を予定しています(まだまだ順次増えていきます)が、まずそれに先駆けて、この愛知芸術文化センターや現代美術そのものに多くの方に親しんでいただこうということで、三沢さんにこのセンターの複雑な空間を生き活きと使ってもらうようお願いしたのがこの展覧会です。

フォーラムでの展示・開催と平行して、美術館のなかでも4月3日のオープンに向けて着々と準備が進んでいます。今回は普段なかなか見ることのできない彫刻展示の様子をご紹介しますとおもいます。



▲マルミミゾウの頭が美術館の入口からフォーラムへ移動中。

基本的に美術館は展示室に作品を展示することを考えて作られていますので、その他の場所へ移動するのは結構大変。このゾウの頭を通すために扉を一時外してあります。

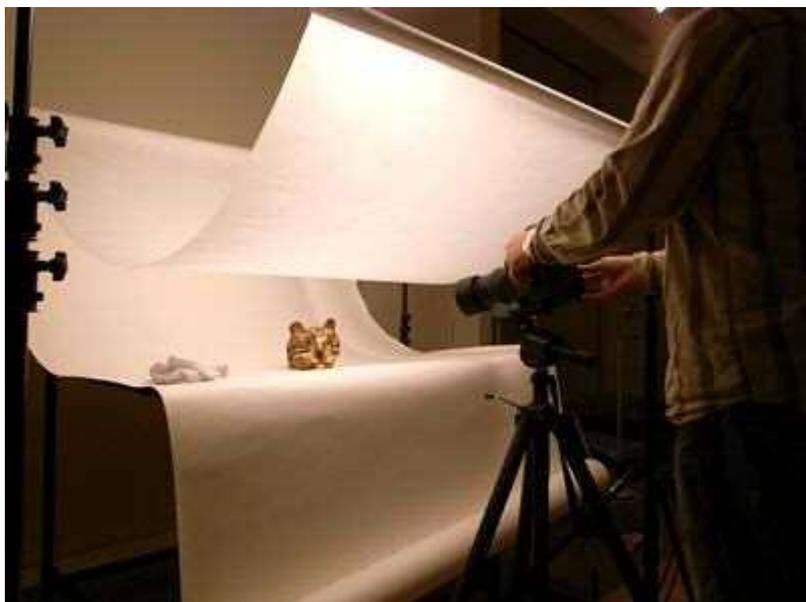


▲クレーンで吊らないと重くて持ち上がりません。



▲台車に乗ったワニ。四人がかりで移動します。ワニちょっと楽しそう。

頭からしっぽまでで6m近くあります。他の美術館スタッフも異様な迫力が気になるのかちょくちょく様子を見に来てくれます。



▲展示と平行して展覧会リーフレットのための撮影も。

展示が終わった作品からどんどん撮っていきます。撮影は深夜まで続きました。



▲地下2階のNADiffさんでは展覧会にあわせて三沢厚彦特設コーナーができていました。グッズすごく充実しています。

春休みにフォーラムでの展示をご覧になった方も、4月3日から美術館でシロクマやワニ、ユニコーンが首を長くして待っていますので、是非また足を運んでみてください。タイトルは前回に引き続き回文

です。
(KS)